

屋内イベント空間における来場者の行動に関する研究

ーブース配置と来場者行動の関係についての考察ー

建設工学専攻
建築史研究

m510074-8 橋爪 晶平
指導教員 伊藤 洋子教授

Keywords

展示会イベント ブース配置 追跡調査 行動パターン クラスター分析

1.研究背景

展示会イベントは、我が国において、戦後数年経った1940年代後半から誕生し、著しい産業発展と共に、新しい製品を直接見て、触れる事が出来るメディアとして普及していった。しかし、こうした展示会イベントは近年、実にバラエティー豊かに発展し大規模化している一方で、ブース配置はどれも均質的であり、開催されるイベント内容との整合性がとれているとは言い難い現状である。これは展示会イベントが、商業施設や文化施設、教育施設といった、いわゆる永続的な使用を想定した施設とは異なり、2日から3日、長い期間のものでも2週間程度と、あくまでテンポラリーな空間であることに起因する。

また、イベント主催者がブース配置を検討する際、シミュレーション等の定量的な評価による指針は無く、経験則に基づいてブース配置を計画している現状であり、企業からのプロモーション効果を明確にし、より向上させる為には、開催される展示会イベントに合わせた、より最適なブース配置の検討は必要不可欠である。

2.研究目的

展示会イベントのブース配置の違いが来場者の行動に影響を与えるという仮定の下、ブース配置の違いによる来場者の行動特性を明らかにし、展示会イベントの内容に合わせた最適なブース配置を定義する為の基礎資料を構築することを本研究の目的とする。

3.調査

3-1. 調査概要

東京ビックサイトにおいて、追跡観察調査を実施した。各調査内容比較の為、調査会場は西ホールに限定した。調査概要を以下に記す。

◇調査イベント：

第1回調査 2011年9月27日(火)

『ダイエット&ビューティーフェア 2011』

第2回調査 2011年10月21日(金)

『危機管理産業展 2011』

第3回調査 2011年11月18日(金)

『システムコントロールフェア 2011』

第4回調査 2011年12月8日(木)

『東京モーターショー2011』

◇調査項目：会場内行動軌跡、会場内滞在時間、滞在ブース数、ブース滞在時間、入退場口

3-2. 調査イベントの形態分類

展示会イベントにおいて来場者行動に影響を与えると考えられる形態的要素、『ブース配置』、『通路形状』、『大規模ブース位置』を各調査イベントそれぞれに対して分類し、調査を行った展示会イベントがどういった形態的特徴を持つのか、アイコンを用いて明確にする。

Research about visitor's behavioral trait in exhibitions.

表1 被験者人数

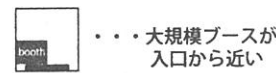
調査イベント	被験者人数		
	男性	女性	計
ダイエット&ビューティーフェア2011	5人	6人	11人
危機管理産業展2011	12人	4人	16人
システムコントロールフェア2011	14人	1人	15人
東京モーターショー2011	12人	5人	17人
計	59人		

第1回調査(ダイエット & ビューティーフェア 2011)

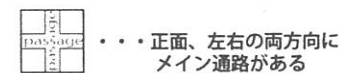
□ブース配置



□大規模ブース位置



□通路形状



第2回調査(危機管理産業展 2011)

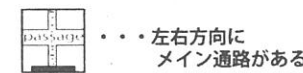
□ブース配置



□大規模ブース位置



□通路形状

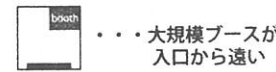


第3回調査(システムコントロールフェア 2011)

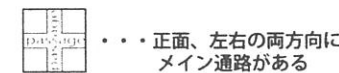
□ブース配置



□大規模ブース位置

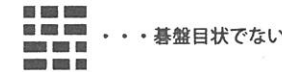


□通路形状

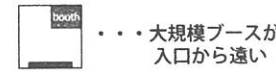


第4回調査(東京モーターショー 2011)

□ブース配置



□大規模ブース位置



□通路形状

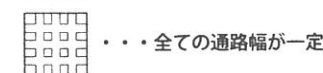


図1 調査イベント形態分類

4.調査結果・分析

4-1. 調査結果

調査によって得られた来場者の行動を、数値化したものを以下に記す。

表2 第1回調査来場者データ

被験者	総歩行距離(m)	イベント滞在時間(分)	曲がった回数	滞在ブース数	ブース滞在時間(分)	平均滞在距離(m)
No.1	98.7	4	2	1	3	49.37
No.2	759.9	49	23	6	38.17	31.04
No.3	222.2	10	10	0	0	22.22
No.4	93.9	2	6	1	0.17	15.65
No.5	556.6	142	29	13	107	19.19
No.6	408.6	18	21	0	0	19.36
No.7	709.1	114	50	9	66	15.16
No.8	91.0	41	6	2	37	15.17
No.9	353.3	20	16	3	10	22.08
No.10	500.5	17	13	0	0	38.50
No.11	875.2	130	14	7	80	48.23

表3 第2回調査来場者データ

被験者	総歩行距離(m)	イベント滞在時間(分)	曲がった回数	滞在ブース数	ブース滞在時間(分)	平均滞在距離(m)
No.1	555.6	78	19	7	42	17.92
No.2	520.9	58	9	10	29	19.45
No.3	845.4	80	24	11	24	14.93
No.4	394.0	20	17	4	7	14.07
No.5	305.6	22	7	1	11	21.83
No.6	811.7	130	11	9	85	23.53
No.7	140.1	17	3	2	15	35.01
No.8	422.1	40	7	7	22	18.35
No.9	192.2	16	3	3	11	32.04
No.10	388.2	23	11	3	12	21.57
No.11	58.2	58	1	6	47	14.59
No.12	245.5	35	9	5	25	15.34
No.13	473.4	92	9	8	64	22.54
No.14	316.5	9	8	0	0	24.35
No.15	140.2	6	0	0	0	46.73
No.16	338.2	26	3	3	7	28.47

表4 第3回調査来場者データ

被験者	総歩行距離(m)	イベント滞在時間(分)	曲がった回数	滞在ブース数	ブース滞在時間(分)	平均滞在距離(m)
No.1	413.3	20	10	2	20.5	41.33
No.2	558.5	17	16	2	6	31.09
No.3	151.5	4	3	0	0	50.49
No.4	570.0	92	15	6	70	38.00
No.5	689.6	26	20	4	19	33.46
No.6	211.0	15	7	2	13	30.15
No.7	107.1	4	5	0	0	21.43
No.8	481.7	26	18	5	13	25.85
No.9	712.8	73	21	14	52	32.99
No.10	210.2	17	5	3	13	42.83
No.11	155.4	28	3	5	21	51.80
No.12	358.3	16	11	4	5.5	23.48
No.13	385.0	26	6	5	20	84.17
No.14	132.9	12	2	2	3	66.46
No.15	288.9	92	11	10	87	28.25

表5 第4回調査来場者データ

被験者	総歩行距離(m)	イベント滞在時間(分)	曲がった回数	滞在ブース数	ブース滞在時間(分)	平均滞在距離(m)
No.1	184.4	8	7	1	2	26.24
No.2	312.9	53	15	9	47	20.86
No.3	78.9	6	4	1	4	19.73
No.4	129.6	4	6	2	3	21.61
No.5	389.3	16	11	3	6.5	26.93
No.6	264.9	37	13	6	28	20.37
No.7	72.3	8	3	0	0	24.09
No.8	196.8	16	7	3	13	28.11
No.9	311.7	9	11	2	3	28.33
No.10	179.5	4	9	1	1	19.95
No.11	354.4	44	23	9	38	15.41
No.12	301.4	11	17	3	1.5	17.73
No.13	196.5	20	9	5	15	21.83
No.14	321.4	30	17	4	18	18.91
No.15	84.6	2	4	1	1.5	21.16
No.16	241.8	10	11	2	4	21.98
No.17	273.7	21	13	6	17	21.06

4-2. クラスター分析による行動パターン分類

上記の各調査結果に対し、クラスター分析及びデンドログラム図を用いて来場者行動を分類する(図2~5)。調査による来場者行動軌跡から、以下の4つの特徴的な行動パターンを認めた。

① 目的達成型

会場の特定のブースにのみ来場目的があり、そのブースに立ち寄りすぐに帰る行動パターン。イベント滞在時間が短い場合が多く、総歩行距離も短い来場者が該当する。

② 部分回遊型

会場の一部、特に自分の興味ある展示ブース周辺を大まかに散策しながら行動するパターン。総歩行距離があまり長くない、ブース滞在時間も比較的短めな来場者が該当する。

③ ローラー型

会場をつぶさに見てまわる行動パターンで、特定のブースだけでなくイベント全体の趣旨に関心がある来場者行動。総歩行距離が長く、イベント滞在時間も比較的長い来場者が該当する。

④ 複合特殊型

上記3つの行動パターンのいくつかが合わさった来場者行動。会場内での行動に均質性が無いパターン。上記それぞれの数値的特徴を併せ持つ来場者が該当する。

クラスター分析により得られた結果を右上に記す。

◇第1回調査：目的達成型 4例
部分回遊型 3例
ローラー型 3例
複合特殊型 1例

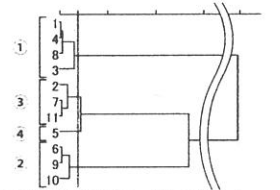


図2 第1回調査結果デンドログラム

◇第2回調査：目的達成型 3例
部分回遊型 8例
ローラー型 4例
複合特殊型 1例

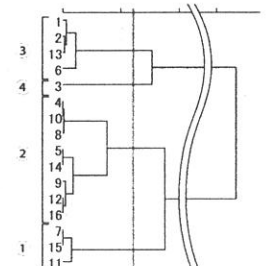


図3 第2回調査結果デンドログラム

◇第3回調査：目的達成型 4例
部分回遊型 4例
ローラー型 4例
複合特殊型 3例

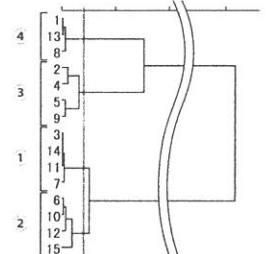


図4 第3回調査結果デンドログラム

◇第4回調査：目的達成型 4例
部分回遊型 4例
ローラー型 6例
複合特殊型 3例

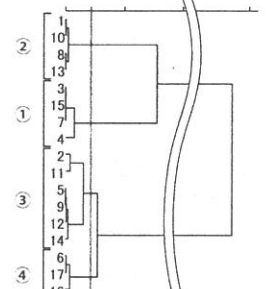


図5 第4回調査結果デンドログラム

5.結論

展示会イベントにおけるブース配置と来場者行動の関係について、今回の調査・分析により、「図1 調査イベント形態分類」において、碁盤目状のブース配置で表される展示会イベント(第1回、第3回調査)に比べ、碁盤目状でないブース配置で表される展示会イベント(第2回、第4回調査)では来場者の行動パターンに突出した例が確認された。

また、第2回、第4回調査における大規模ブース位置は同様であることから、碁盤目状でないブース配置において、通路形状の違いが両者の行動パターンの違いに表れたと言える。これは碁盤目状でないブース配置により視界の抜けが悪い為、思い通りに行動しにくく、通路形状などの他要素に、来場者の行動が影響を受けてしまうからではないかと考えられる。

【参考文献】

- 飯島絵里：「展示会場におけるブースが断面交通量に与える影響」日本建築学会大会論文 2010年9月
- 寺澤勉：「展示会の基本構造」デザイン学研究 BULLETIN OF JSSD Vol.43 1996年

Graduate School, Dep. of Architecture and Civil Engineering, Shibaura Institute of Technology

HASHIZUME Shohei